

令和3年度使用 中学校国語科（書写）調査資料

発行者	調査内容
東京書籍	<p><b>&lt;書写にかかわる基礎的・基本的な技能について&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 始筆から終筆までの送筆を「とん・すう・ぴた」の3つで示し、穂先の向きを表すマークにイラストがあり目を引く。</li> <li>○ 基本点画にそれぞれ始筆・終筆のマークがある。</li> <li>○ 字形の整え方のポイントをナンバリングしてわかりやすく示している。</li> <li>○ 筆のキャラクターが技能理解の手助けとなっている。</li> <li>△ 楷書と行書の違いを捉えるための文字が小さい。</li> </ul> <p><b>&lt;主体的な学びを支える資料・構成について&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「目標」「見つけよう」「確かめよう」「生かそう」「振り返って話そう」といった学習の流れに沿って教材が構成されている。</li> <li>○ 毛筆では、穂先の動きが濃淡のある薄墨と朱の2色で示してある。行書の筆脈を青い点線で示し、注意すべき点を記号で示している。</li> <li>○ 行書の筆使いを「四つの動き」でパターン化して示している。</li> <li>○ 毛筆の手本の横には「書写のかぎ」として、書くときの注意すべき点を掲載している。</li> </ul> <p><b>&lt;その他&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小学校の学習事項に8ページを割いて詳しく説明している。</li> <li>○ イラストやキャラクターを多く登場させ、興味・関心を高める工夫がされている。</li> <li>○ 歴史や芸術性に触れる一方、生活に密着した書を多く取り上げている。</li> <li>○ 目次のQRコードで全ての動画を見ることができる。教科書のページごとに動画教材が表示されていてとても分かりやすい。動画は書き手目線で理解しやすい。</li> <li>△ B5判変形なので他の教科書よりも奥行がやや大きい。</li> </ul>
三省堂	<p><b>&lt;書写にかかわる基礎的・基本的な技能について&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基本点画にそれぞれ始筆・終筆のマークがある。</li> <li>○ 文字の大きさと配列を学習するために葉書(p.84)を教材としている。</li> <li>○ 文字の大きさと配列の横書きの学習で、算用数字とアルファベット(p.31)をなぞるようになっている。</li> <li>○ 行書の特徴をふまえて硬筆で書くページに楷書も示されていて違いを認識しやすい。</li> <li>△ 姿勢と筆記用具の持ち方に確認チェック欄がない。</li> </ul> <p><b>&lt;主体的な学びを支える資料・構成について&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「目標」「書き方を学ぼう」「見つけよう 考えよう」「振り返ろう」といった学習の流れに沿って教材が構成されている。</li> <li>○ 毛筆では、穂先の動きが濃淡のある薄墨と朱の2色で示してある。</li> <li>○ 「書き方を学ぼう」では、行書の筆脈を点線や矢印で示し、書くときの注意すべき点を掲載している。</li> <li>○ 毛筆学習のあとには、硬筆で確かめる「書いて身につけよう」を設けている。</li> </ul> <p><b>&lt;その他&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ p.6に1年時と3年時に氏名・学校名を書く欄を設け、成長を確認させている。</li> <li>○ p.68 部分別行書一覧表を三字体紹介し、理解を助ける工夫がされている。</li> <li>○ 毛筆の教材（手本）が豊富である。</li> <li>○ B5判で扱いやすい。</li> <li>△ QRコードの動画が基礎編のみなので、手本を書く動画もあるとより理解が深まる。</li> </ul>

教育出版	<p><b>&lt;書写にかかわる基礎的・基本的な技能について&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基本点画の筆圧を1～3の順序付けをしている。</li> <li>○ 字形の学習で、実際に多くの文字を書く活動になるよう示されている。</li> <li>○ 文字の大きさと配列を学習するために手紙を教材としている。</li> <li>○ 行書の特徴を捉える際、「速く書ける」実用的な書体であるという表記がないため、授業で学習を深めることができる。</li> </ul> <p><b>&lt;主体的な学びを支える資料・構成について&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「目標」「試し書き」「考えよう」「生かそう」「振り返ろう」「学習や日常生活に生かそう」といった学習の流れに沿って教材が構成されている。</li> <li>○ 各教材末に「振り返ろう」として評価の観点を示し、自己評価(○△)を記入させるようになっている。</li> <li>○ 毛筆では、穂先の動きが濃淡のある薄墨と朱の2色で示してある。行書の筆脈を点線で示し、筆順や書くときの注意すべき点を示している。</li> <li>○ 行書特有の筆使いを体験できるように筆の写真を掲載し、なぞり書きができるようになっている。</li> </ul> <p><b>&lt;その他&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 中学生を登場させ学ぶ姿を入れることで、興味・関心を高める工夫がされている。</li> <li>○ 行書や仮名の運筆を分かりやすく丁寧に説明している。</li> <li>○ 歴史や芸術性だけでなく、入学願書の書き方など実用性も高める工夫がされている。</li> <li>○ 「コラム」によって文字文化を興味深く学べるように工夫されている。</li> <li>○ 目次のQRコードで全ての動画を見ることができる。動画は書き手目線で見やすく、書き始めに流れるポイントも的確である。</li> </ul> <p>△ B5判変形なので他の教科書よりも奥行がやや大きい。</p>
光村図書	<p><b>&lt;書写にかかわる基礎的・基本的な技能について&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「書写ブック」がついていて、なぞって書くことで技能の習得に結びついている。</li> <li>○ 「学習の窓」でポイントをまとめて示している。</li> <li>○ 始筆から終筆までの送筆を「トン・スー・トン」の3つで示し、筆圧を1～3の順序付けをしている。</li> <li>○ 基本点画の始筆・終筆を表すマークが筆跡の線上に置かず、実際の写真で示している。</li> </ul> <p>△ 楷書と行書の違いを捉えるための文字が小さい。</p> <p><b>&lt;主体的な学びを支える資料・構成について&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「目標」「考えよう」「確かめよう」「生かそう」「学習を振り返る」といった学習の流れに沿って教材が構成されている。</li> <li>○ 各教材末に「学習を振り返る」という評価の観点を示し、生徒にチェックを記入させるようになっている。</li> <li>○ 毛筆では、穂先の動きが濃淡のある薄墨と朱の2色で示してある。行書の筆脈を点線で示し、筆順や書くときの注意すべき点を示している。</li> <li>○ 「書写ブック」で、毛筆の学習を硬筆に生かせるようになっている。</li> </ul> <p><b>&lt;その他&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 硬筆練習用「書写ブック」を別冊にすることによって使いやすくなっている。</li> <li>○ 入学願書の書き方や身近なデザインなど、書の実用性を高めている。</li> <li>○ QRコードは、資料が大変豊富で興味・関心をもたせる工夫がされている。</li> </ul> <p>△ 動画は薄朱墨で運筆がよく分かるが、目線は左斜め上からではなく真上からが良い。</p> <p>○ B5判で扱いやすい。</p>